

囲碁、将棋、麻雀のお墓

第2回目に大賞を受賞した神奈川県横須賀市の杉本 孝一さん(当時 68才)は好きな囲碁。あの世に行っても退屈せずに悠久の時を過ごせそうだ。定年退職後は自宅で囲碁クラブを聞いている杉本さんは、お孫さんとお墓で対局している写真で応募してきた。



第7回で大賞を受賞した栃木県鹿沼市大窪 良美さん(当時 61歳)のお墓は、将棋好きだった夫のために将棋盤と王将以下飛車、角、歩までの将棋の駒をレリーフ状に浮き彫りにしたお墓。ユニークなお墓の前で、一人でも多くの人が足を止め、話し声を聞かせてあげることができれば、夫も寂しさが和らぎ、喜んでくれるのでは……と大窪さん。なお、お墓は中国産の南平黒という黒い石を使い、盤は筋彫り、駒は浮き彫り、レリーフとなっている。



第8回で入賞した福島県郡山市の渡辺 一さん(当時 31歳)のお墓は、五角形の将棋駒型お墓の側に、将棋盤もセット将棋好きだった父親のために建立した。墓石は王将駒のように立派な五角形、脇に石製でちゃんと目まで刻まれた将棋盤をセット。<父は将棋が大好きだったので、駒の形にしました。荷物を置く台は、将棋盤になっています。>



第 12 回で入賞した愛媛県松山市の大塚 雅也さんは、墓面は碁盤イメージして建立した。親父を想う時、何故か煙草と碁を思い出してしまいます。縁側に座って背を丸くして囲碁の本を片手に煙草をふかし、なにかブツブツ言いながら座っている親父・・・そんな親父のお墓を建てるにあたって、石材店さんに御相談させて頂きました。あまり凝ったカタチのお墓は正直抵抗があったのですが、親父らしいお墓を建てたい・・・という私たちの思い、そして親父の思い出をお話させて頂いたところ、このようなお墓を作させて頂きました。花立は碁盤の足のイメージ、お線香立ては灰皿を兼ねた碁笥と同じカタチで・・・、拝石の正面に碁盤をイメージした額の加工を施し、頭は碁石の曲線に合わせた丸い加工を・・・。自然で素朴な親父らしいお墓。ここに来れば親父に会える・・・お参りする度に感じられるお墓になり、とても気に入っております。



第 19 回では静岡県牧之原市の増田 成宜さんが、麻雀好き亡父のために『国士無双・13 面待ち』の麻雀牌型お墓で入賞した。父が亡くなるなんて考えた事ありませんでした・・・。私の記憶にある父は、暇さえあれば友人や息子の私、私の仲間も引き入れて麻雀をしていました。とても楽しそうな父を、今でもはっきり覚えています。



そんな父が亡くなった後、「おれが死んだら散骨するか、麻雀牌の墓にしてくれよ」と冗談半分に言っていた事を思い出しました。その時は「こんなに元気なのに何言ってるんだよ」と思っていたのですが、いざお墓を建てる事になった時、麻雀好きな父のあこがれの役『国士無双・13 面待ち』の形にしよう！と考えました。生前、父が愛用していた麻雀牌を元に、細部にまでこだわり再現しました。出来上がったお墓を見たとき、父との思い出がよみがえるとともに「これで約束が果たせた・・・」というような気がして満足することが出来ました。きっと天国でも麻雀卓を囲んで、大好きな麻雀を楽しんでいると思います。